

# Arcserve Unified Data Protection 7.0

## 環境構築ガイド

### - コンソール + 復旧ポイント サーバ - (フル コンポーネント)

### インストール編

---

はじめに .....	1
<b>1. インストール .....</b>	<b>2</b>
1.1 インストール前の確認と準備 .....	2
1.2 バージョンの確認 .....	9
1.3 ライセンス キーの登録 .....	14
<b>2. 運用開始のための設定 .....</b>	<b>17</b>
2.1 環境設定ウィザード .....	17
<b>3. 運用開始のための設定 .....</b>	<b>23</b>
3.1 インストールの種類 .....	23
<b>4. 製品情報と無償トレーニング情報 .....</b>	<b>25</b>
4.1 製品情報および FAQ はこちら .....	25
4.2 トレーニング情報 .....	25

#### 改定履歴

2019年 5月 Rev1.0 リリース

2019年 7月 Rev1.1 リリース

2020年 5月 Rev1.2 リリース



## はじめに

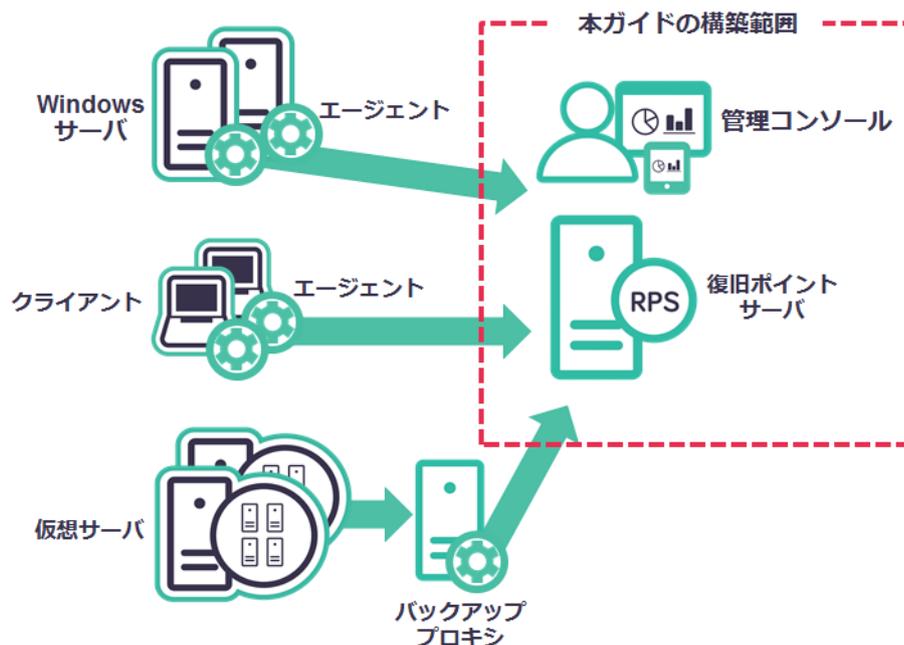
Arcserve Unified Data Protection (以降 UDP と表記) は、非常に「簡単」かつ「手頃」なディスクベースのシステム保護ソリューションです。単体サーバで構成される小規模なコンピューティング環境にも、複数サーバで構成される大規模なコンピューティング環境のニーズにも必要とされるバックアップ・リカバリ機能を提供します。

導入から運用を開始するまで、ほんのわずかな時間と設定で済むだけでなく、一度運用を始めると専門知識や手間をかける必要がほとんどないため、バックアップ運用管理者の手薄な拠点や小規模な部門でも安心してお使いいただくことができます。

本ガイドでは、サーバ管理やバックアップ運用経験の少ない方でも、簡単に UDP の環境構築を行っていただけるよう、ステップバイステップでインストールから運用開始までの手順を説明しています。

なお、本ガイドでは以下のような環境で、UDP のすべてのコンポーネントを 1 台のサーバに構築することを想定していますが、マシン性能によってはコンソールと復旧ポイントサーバを別マシンに分けて導入することも検討してください。導入に必要なメモリやディスクは動作要件で確認いただけます。

<動作要件> <https://support.arcserve.com/s/topic/0TO1J000000I3pqWAC/arcserve-udp-compatibility-matrix?language=ja>



<参考> Arcserve UDP のコンポーネントについて：

- UDP エージェント：バックアップおよびリストアを実行します。
- UDP 復旧ポイントサーバ (Recovery Point Server : RPS) :
  - (1) バックアップ データ (復旧ポイント) を保管するデータストアを提供します。
  - (2) (UDP エージェントが同時にインストールされます)
- UDP 管理コンソール：

バックアップ対象やバックアップ スケジュールの管理、および操作画面を提供します。

統合管理を行う場合に導入します。



## 1. インストール

本ガイドでは、Arcserve UDP エージェント、Arcserve UDP 復旧ポイント サーバ、Arcserve UDP コンソール 計 3 コンポーネントをすべてインストールする手順をご説明します。

説明手順は、ご使用の環境により一部手順が異なる場合がありますのでご注意ください。

インストールに必要なディスク要件は、環境により異なりますので下記動作要件をご参照下さい。

動作要件の参照先：

<https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-7-0-Software-Compatibility-Matrix?language=ja>

### 1.1 インストール前の確認と準備

UDP コンソールは、Microsoft SQL Server 2014 Express SP2 (デフォルトデータベース) を利用するため、Microsoft .NET Framework 4 以上が必要です。Windows Server 2008R2 に導入する場合、Microsoft .NET Framework 4 をインストールするため、導入後に OS の再起動要求が入ります。UDP コンソール導入時の OS 再起動を回避するには、事前に Microsoft .NET Framework 4 (以上) を導入し、リポート処理を行います。

※ Microsoft .NET Framework 4 は日本マイクロソフト社の Web ページからダウンロードできます。(言語パックも併せて導入してください)

Windows Server 2012 では Microsoft .Net Framework 4 が導入されています。また、Windows Server 2012 R2 以降の OS バージョンの場合には、Microsoft .Net Framework 4.5.1、もしくはより新しいバージョンがデフォルトで導入されているため、.Net Framework の導入はスキップされます。このため、再起動は発生しません。

#### (1) [インストールの開始]

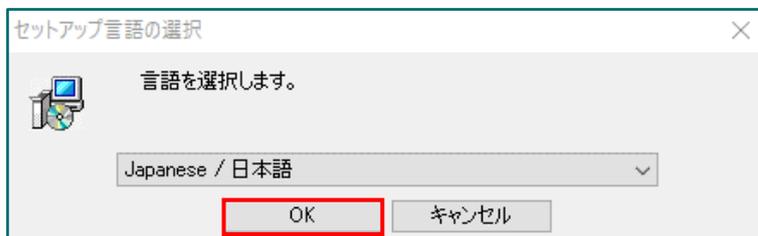
Arcserve Unified Data Protection (以降 UDP と表記) をインストールするコンピュータに、Administrator または、Administrators グループのユーザでログオンします。「Arcserve Unified Data Protection」インストール メディア をセットし、[setup.exe] を実行します。セットアップ ウィザードが開始されます。

※[ダウンロード](#)した Arcserve\_Unified\_Data\_Protection\_7.0\_with\_Update\_X.exe からインストール可能です。

(“X”は Update の番号です。)

#### (2) [セットアップ言語の選択]

[Japanese / 日本語] を確認し、[OK] をクリックします。



## (3) [使用許諾契約]

使用許諾契約を最後まで読み、同意する場合は [使用許諾契約に同意します] を選択し [次へ] をクリックします。



## (4) [インストールタイプの選択]

[インストールするコンポーネントの選択] で、[Arcserve Unified Data Protection – フル] を選択し、[次へ] をクリックします。



※インストールするコンポーネントを個別指定したい場合は、「3.補足情報」を参考に [インストールタイプの選択] メニューで [高度なインストール] を選択し、必要なコンポーネントを指定します。



## (5) [デスティネーション フォルダの選択]

インストール先フォルダを確認し、[次へ] をクリックします。

The screenshot shows the 'Arcserve Unified Data Protection セットアップ' (Setup) window. The left sidebar has 'デスティネーション フォルダ' (Destination Folder) selected. The main area is titled 'デスティネーション フォルダの選択' (Destination Folder Selection). A text box contains the path 'C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\'. Below it, '必要な領域:' (Required space) is 7.39 GB and 'C で使用可能な容量:' (Available space on C:) is 47.44 GB. At the bottom, the '次へ(N) >' button is highlighted with a red box.

## (6) [環境設定]

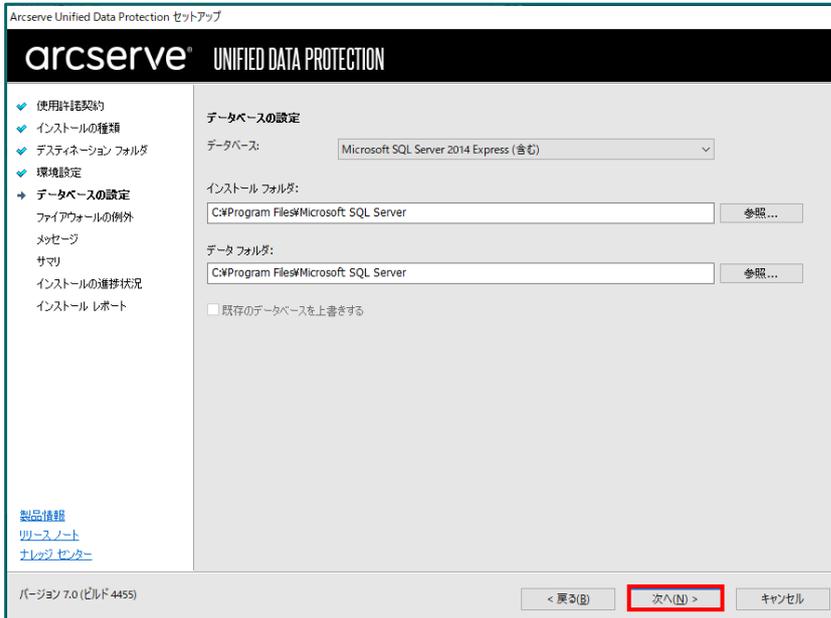
使用するプロトコルを「HTTPS」または「HTTP」から選択します。また、ブラウザでリモート管理を行うためのポート番号を確認します。デフォルトで設定されるポート番号はエージェントが「8014」、コンソールが「8015」です。ここで登録したポート番号を使用して UDP を操作します。(本ガイドでは「HTTPS」(デフォルト)を選択しています) UDP で使用する Windows 管理者の名前 [ユーザ名] を確認し、[パスワード] を入力し、[次へ] をクリックします。

The screenshot shows the 'Arcserve Unified Data Protection セットアップ' (Setup) window. The left sidebar has '環境設定' (Environment Settings) selected. The main area is titled '環境設定' (Environment Settings). The 'プロトコル:' (Protocol) dropdown is set to 'HTTPS'. Below it, a note says '注: より安全な通信のためには、HTTPS の通信プロトコルが推奨されます。' (Note: For more secure communication, the HTTPS communication protocol is recommended). The 'エージェント ポート:' (Agent port) is 8014 and 'コンソール ポート:' (Console port) is 8015. Under '管理者権限のあるアカウントを指定する' (Specify an account with administrator privileges), the 'ユーザ名:' (Username) is 'Administrator' and the 'パスワード:' (Password) is masked with dots. A note below says '注: ドメイン ユーザの UDP コンソールまたはエージェント UI へのアクセス権は、ユーザ管理コンソールから付与できます。' (Note: Access rights for domain users to the UDP console or agent UI can be granted from the user management console). At the bottom, the '次へ(N) >' button is highlighted with a red box.



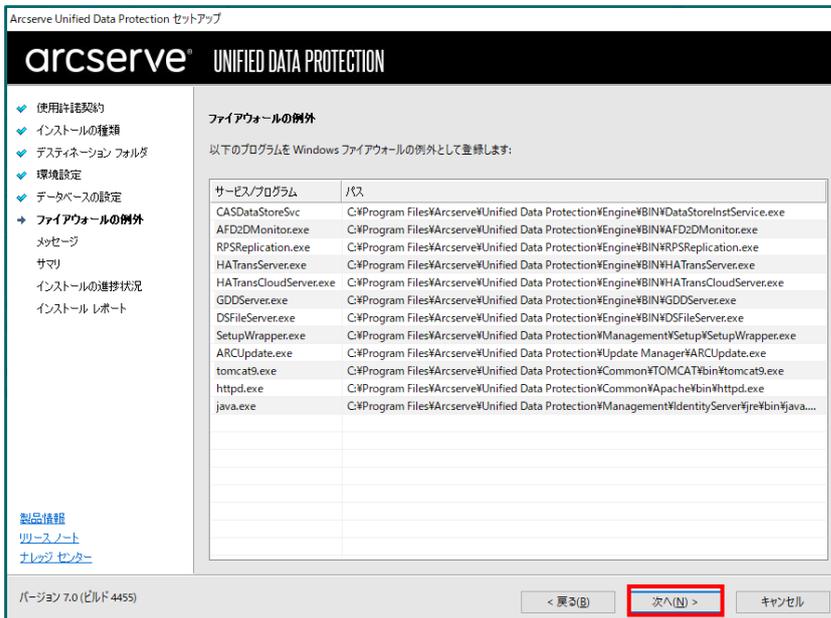
(7) [データベースの設定]

UDPが使用するデータベースを設定します。標準では製品に添付された Microsoft SQL Server 2014 SP2 Express がインストールされます。内容を確認し、[次へ]をクリックします。



(8) [ファイアウォールの例外]

Windows ファイアウォールの例外として登録します。内容を確認し、[次へ]をクリックします。



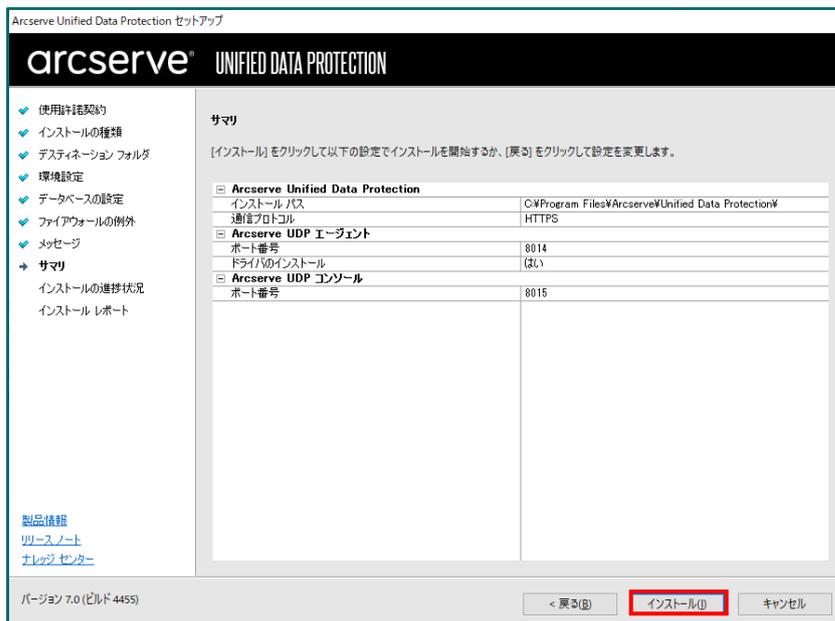
## (9) [メッセージ]

セットアップの検証が完了し、インストールの準備が整いました。[次へ] をクリックして進めます。



## (10) [サマリ]

サマリ内の設定項目が正しければ [インストール] をクリックし、インストールを開始します。もし相違があれば [戻る] をクリックして前に戻り、再設定します。



## (11) [インストールレポート]

「インストールが完了しました」のメッセージを確認し、[完了] をクリックします。デフォルトは、インターネット接続環境であれば、製品の更新を確認し最新の状態にすることができます。またチェックを外し、更新を確認せずに [完了] させることもできます。オフライン環境で更新を手動で適用する場合、[ここ](#)よりダウンロードしてください。

※ 最新の UDP Update を適用する場合、OS 構成やアップデート状況により、再起動を求められる場合があります。再起動が必要な場合に表示されるメッセージは[こちら](#)をご確認ください。



## (12) [更新の確認]

[更新の確認] 画面からダウンロード経路を選択して、[更新] をクリックしてダウンロードが開始されます。

※この画面は、（プロキシを経由しない）直接ダウンロードをした場合になります。

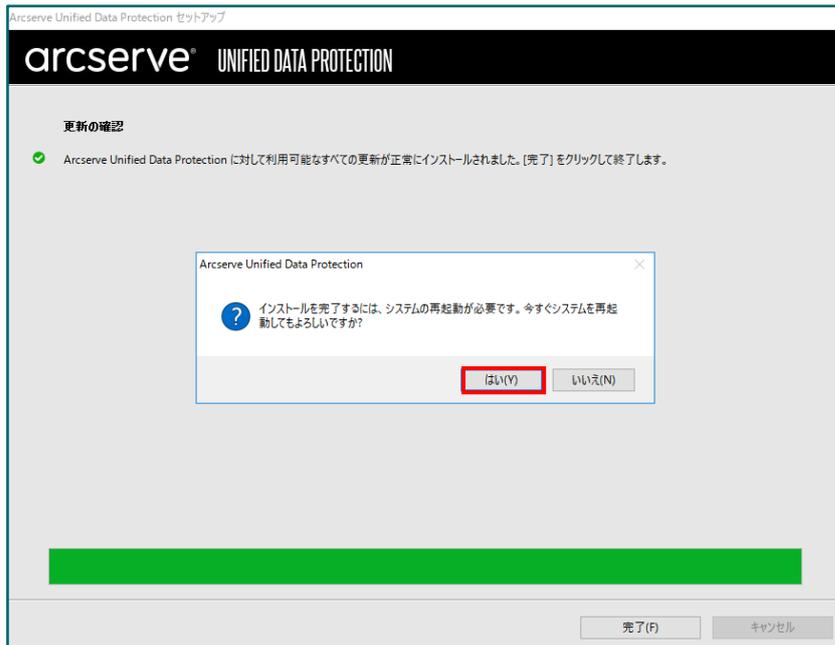


## (13) [更新の確認]

[完了]を押して終了します。



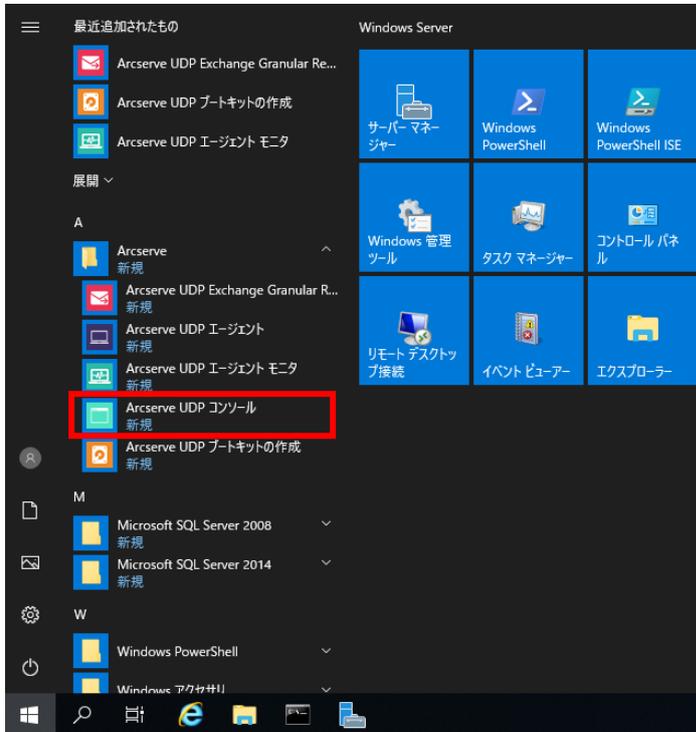
※ 以下のように再起動を求められた場合は、[はい] をクリックしシステムを再起動してください。



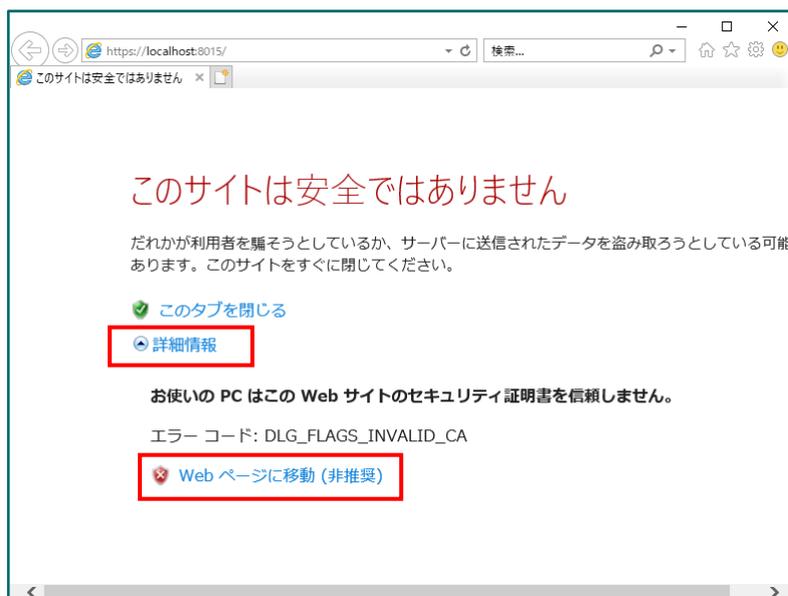
## 1.2 バージョンの確認

### (1) [Arcserve UDP コンソールの起動]

インストール完了後、管理者権限のあるユーザ（ここでは Administrator）でログインし、スタートメニューから、[Arcserve UDP コンソール] を起動します。



既定のブラウザが起動しますが、デフォルトの証明書が証明機関によって識別されないため、警告が表示されません。[詳細情報] → [Web ページに移動 (非推奨)] を選択し続行します。



UDP のログイン画面が表示されます。IP プロトコルを HTTPS にすると、Web ブラウザで警告が表示されます。警告は、証明書が証明機関によって識別されていないことを示していますが、警告を無視して続行してもネットワークで転送されるデータは暗号化されます。

警告を表示されないようにする場合は、以下のステップで証明書の追加が必要です。

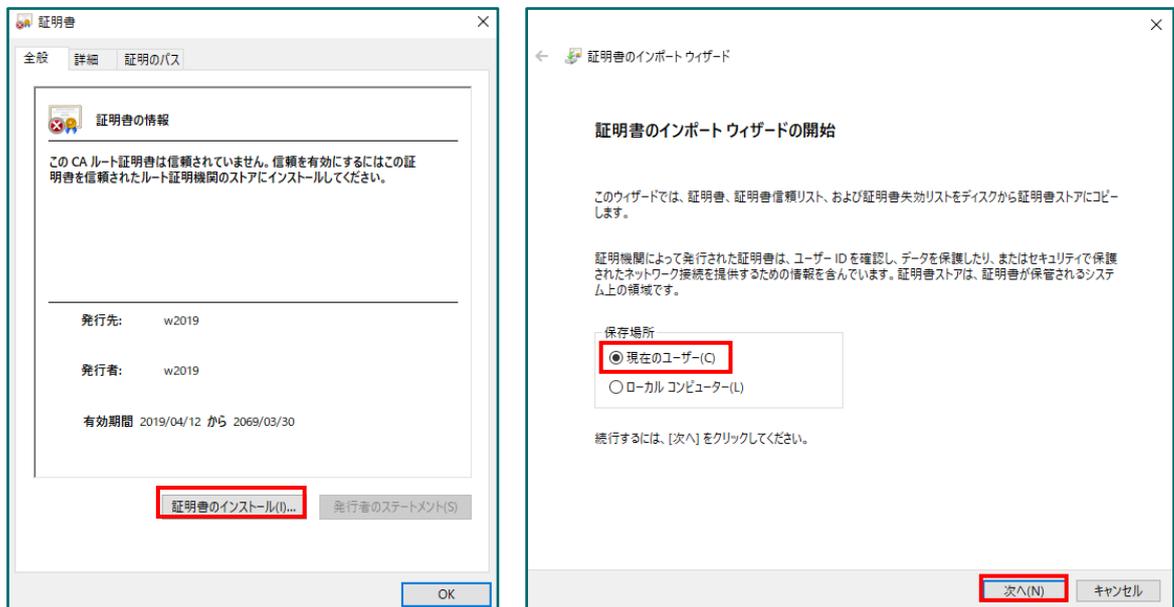
#### (ア) [証明書のインストール]

アドレスバーの証明書のエラーをクリックし、続いて証明書の表示をクリックして証明書を表示します。



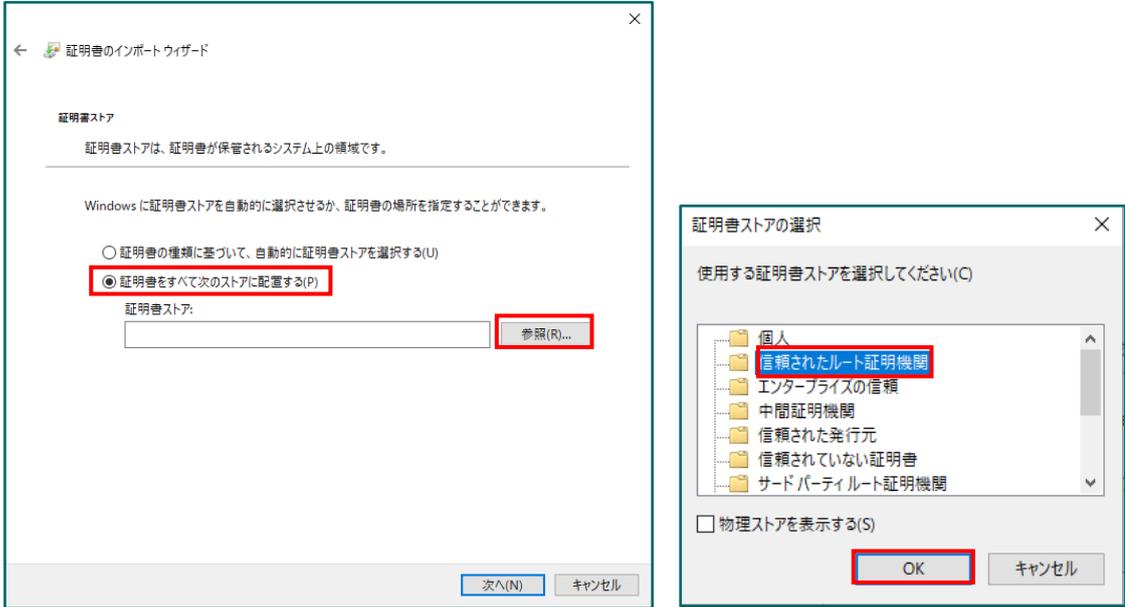
証明書を表示し、[証明書のインストール] をクリックし証明書のインポート ウィザードを起動します。

[現在のユーザー] を選択し、[次へ] をクリックします。



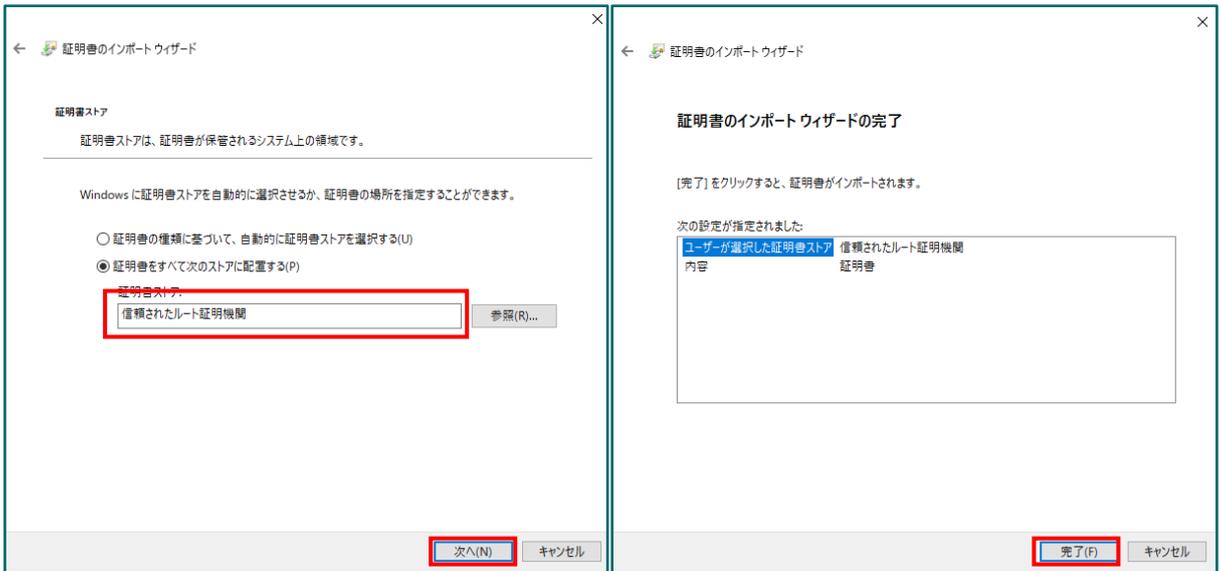
[証明書をすべて次のストアに配置する] を選択し参照をクリックします。

証明書ストアの選択画面で、[信頼されたルート証明機関] を選択し [OK] をクリックします。

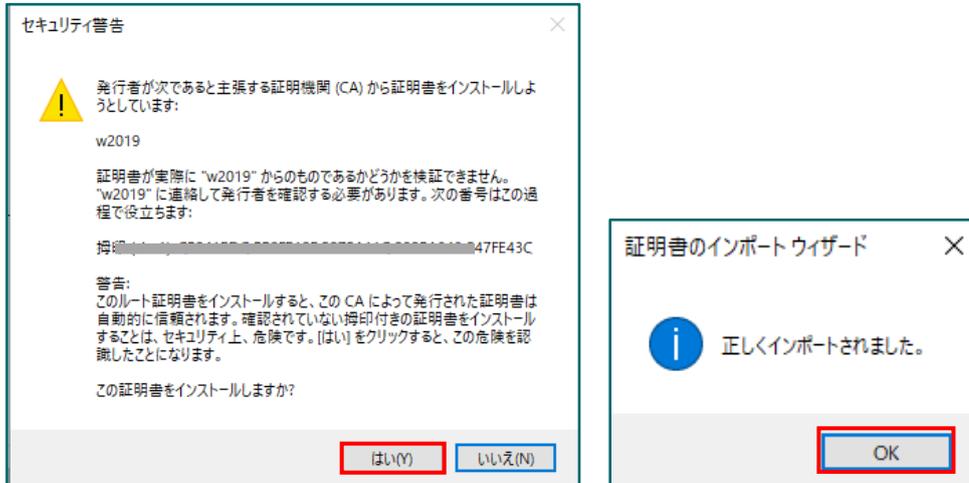


証明書ストアに、信頼されたルート証明機関が追加されたのを確認し、[次へ] をクリックします。

証明書がインポートされたことを確認し、完了を押します。



証明書をインストールする旨、セキュリティ警告画面が出てきますが、[はい] をクリックしインポートします。

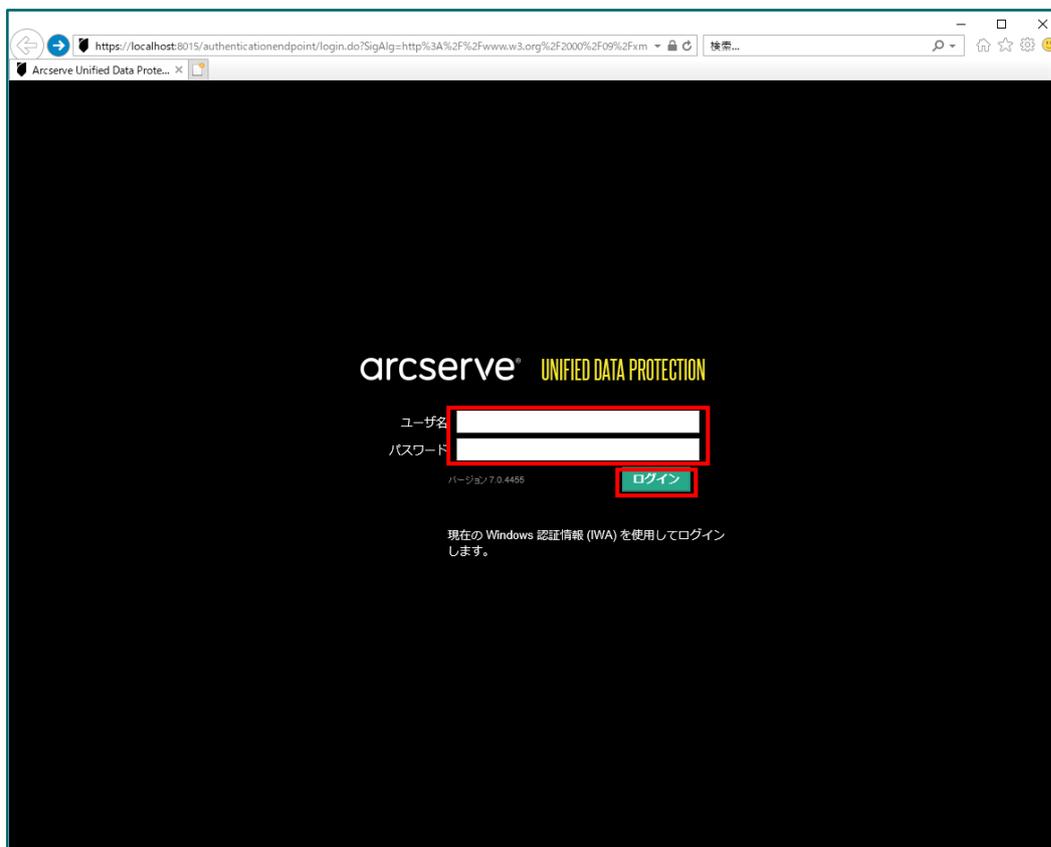


ブラウザを再起動し、UDP コンソールのログイン画面を開き、証明書エラーが解消されていることを確認します。

## (2) [ログイン]

インストール時に指定したアカウントでログインします。ここでは、このまま「Administrator」アカウントでログインします。[パスワード] 入力し、[ログイン] をクリックします。

※ UDP コンソールを導入したサーバ上で、UDP コンソールのログイン画面を表示した場合は、「現在の Windows 認証情報(IWA)を使用してログインします」をクリックすると、ログイン操作を行わずに UDP コンソールを表示できます。



## (3) [バージョン情報] の確認

ログイン後、画面右上の [ヘルプ] から、[バージョン情報] をクリックします。



#### (4) [バージョン情報]

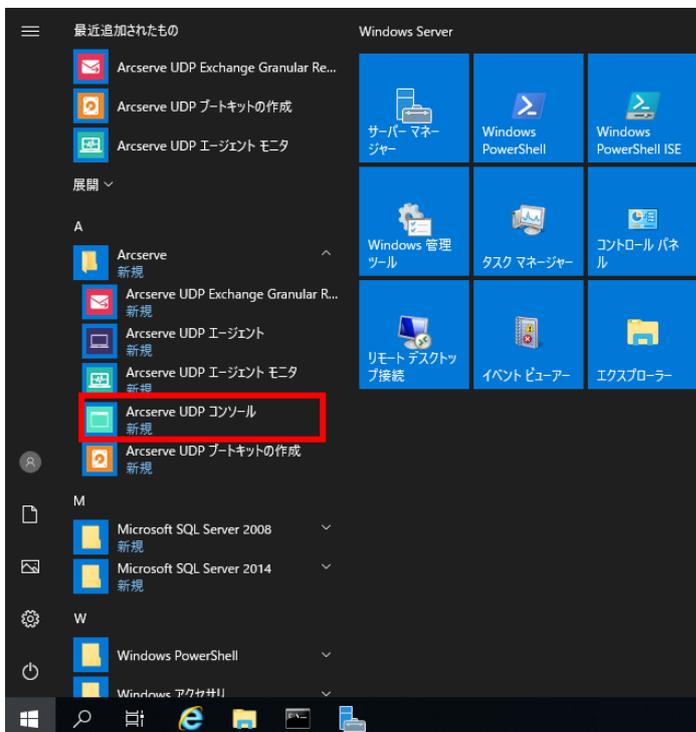
バージョン、Build 番号、および Update の確認ができます。



### 1.3 ライセンス キーの登録

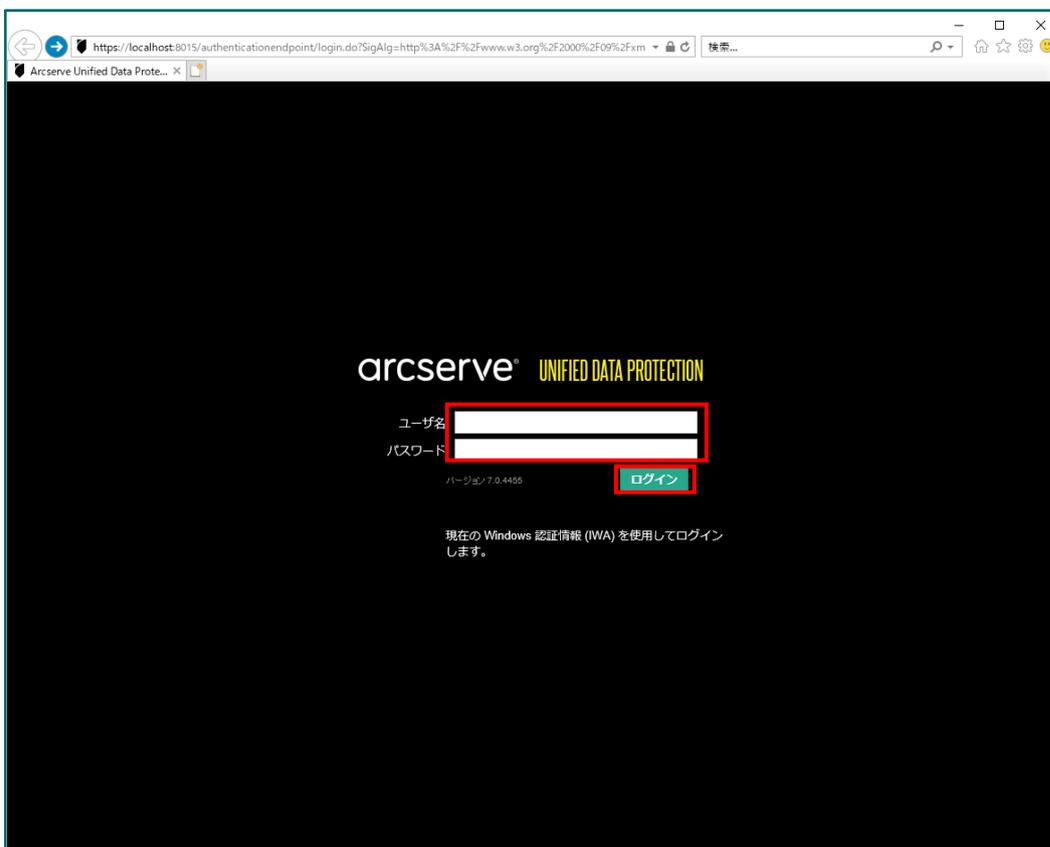
#### (1) [ライセンス登録画面の起動まで]

インストール完了後、管理者権限のあるユーザ（ここでは Administrator）でログインし、スタートメニューから、[Arcserve UDP コンソール]を起動します。



UDPのログイン画面が表示されます。インストール時の [環境設定] で設定したユーザ名（上段）、パスワード（下段）を入力し、[ログイン]をクリックします。

※ UDP コンソールを導入したサーバ上で、UDP コンソールのログイン画面を表示した場合は、「現在の Windows 認証情報(IWA)を使用してログインします」をクリックすると、ログイン操作を行わずに UDP コンソールを表示できます。



ログイン後、画面右上の [ヘルプ] から、[アクティベーションとライセンス] をクリックします。



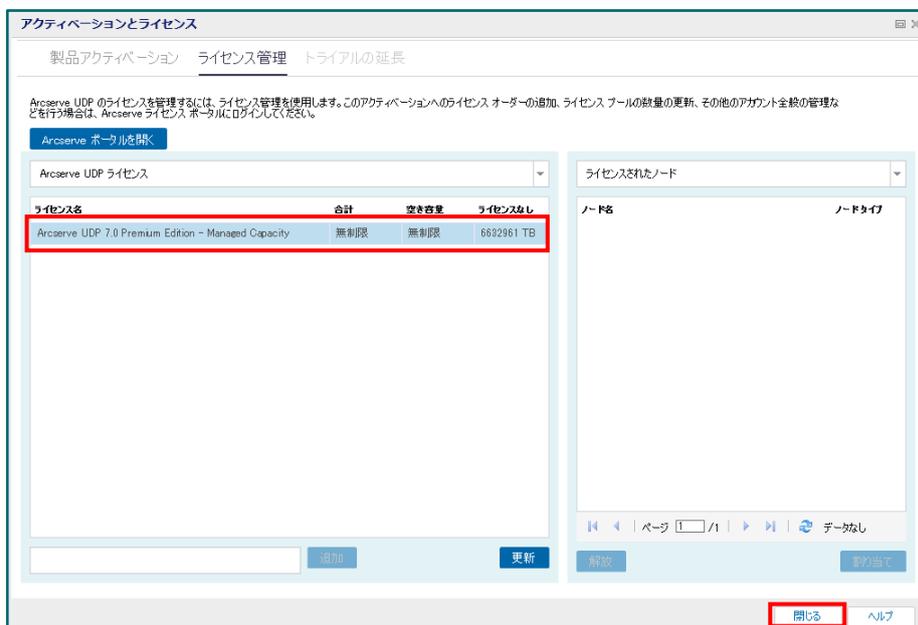
## (2) [ライセンス管理]

[ライセンス管理]を選択して下欄に 25 桁のライセンス キーを入力し、[追加]をクリックします。



## (3) 登録した[コンポーネント名]（製品名）を確認し、[閉じる]をクリックし画面を閉じます。

以上でインストール、およびライセンスの登録は完了です。



## 2. 運用開始のための設定

UDP インストール後、管理コンソールを起動すると、[環境設定ウィザード] が自動的に起動します。

このガイドでは、[環境設定ウィザード] を利用してデータストアの作成と Windows サーバのバックアップ プランの作成方法を説明します。

### 2.1 環境設定ウィザード

#### (1) [Arcserve UDP 環境設定ウィザードへようこそ]

環境設定ウィザードを利用して、バックアップ プランを作成します。

[次へ] をクリックします。



## (2) [ステップ 1/5: 保護タイプの選択]

[プラン名] を入力し、[保護するノードの種類] を選択し、[次へ] をクリックします。

本ガイドでは、[バックアップ : エージェント ベース Windows] を選択します。



## (3) [ステップ 2/5: 保護するノードの追加]

[ホスト名/IP アドレス] にバックアップ対象のノード名を入力し、[ユーザ名] と [パスワード] を入力し、[リストに追加] をクリックし、右側の [ノード名] リストに保護対象が追加されることを確認し、[次へ] をクリックします。



※UDP コンソールへのバックアップ対象の追加は、[リソース] タブの左ペインの [ノード] から [すべてのノード] を選択した画面でも実行できます。

#### (4) [ステップ 3/5: デスティネーションの選択]

バックアップ先を指定します。バックアップ先に RPS を指定する場合は、データストアを作成する必要があります。

[データストア] - [作成] をクリックします。データストア作成後、[次へ] をクリックします。

※本ガイドの [ 1.1 インストール前の確認と準備 ] に従っている場合は RPS を含むすべてのコンポーネントがインストールされていますので、デスティネーションの [復旧ポイント サーバ] にローカル サーバが表示されていません。他の復旧ポイント サーバを指定する場合は、[追加] をクリックし登録を行います。

なお、環境設定ウィザードの完了後に復旧ポイント サーバを追加する場合は、[リソース] タブの左ペインの [デスティネーション] から [復旧ポイント サーバ] を選択して、[復旧ポイント サーバの追加] から登録してください。

#### (5) [ステップ 3/5: デスティネーションの選択] データストアの作成

[データストア名] を入力し、[データストア フォルダ] を指定します。

デフォルトでは [データのデデュプリケート] のチェックがされており、バックアップ データの重複排除機能が有効になっています。(本ガイドではデフォルト設定のまま作成を行います)

重複排除を有効化したデータストアを作成する場合、[データストア フォルダ] と以下のフォルダを指定して [次へ] をクリックします。

- ・データ デスティネーション
- ・インデックス デスティネーション
- ・ハッシュ デスティネーション



Arcserve Unified Data Protection

arcserve® UNIFIED DATA PROTECTION

更新サーバを使用できません。 | メッセージ (1) | administrator

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定 | ハイアベイリティ

### 環境設定ウィザード

ステップ 3 / 5: デスティネーションの選択 | データストアの作成

一般ルールを参照するか、デデュPLICATIONのストレージ容量要件を次で推定できます: [要件プランニングのクイックリファレンス](#)。

デデュPLICATION、圧縮、暗号化を有効化または無効化する設定は、データストアの作成後は変更できません。

復旧ポイントサーバ: w2019-01

データストア名: **DS01**

データストアフォルダ: E#datastore01#DS01 参照

同時アクティブノードの制限: 4

デデュPLICATIONの有効化

デデュPLICATIONブロックサイズ: 16 KB | デデュPLICATION | テープバックアップ | リストア

ハッシュメモリ割当て: 8973 MB (最大: 16383 MB, 最小: 1024 MB)

### 環境設定ウィザード

ステップ 3 / 5: デスティネーションの選択 | データストアの作成

ハッシュメモリ割当て: 8973 MB (最大: 16383 MB, 最小: 1024 MB)

ハッシュデスティネーションは SSD (Solid State Drive) 上にある

データデスティネーション: **E#datastore01#Data** 参照

インデックスデスティネーション: E#datastore01#Index 参照

ハッシュデスティネーション: E#datastore01#Hush 参照

圧縮を有効にする

圧縮タイプ:  標準  最大

暗号化の有効化

デスティネーションの容量が上限に近づくと、電子メールアラートを送信する

ヘルプ 前に戻る **次へ** キャンセル

#### ※注意：

デフォルトの設定の [デデュPLICATIONの有効化] では、重複排除時の比較処理でデータ量に応じメモリが消費されます。環境にて十分なメモリがあることをご確認ください。

デフォルトの [デデュPLICATIONブロックサイズ] は、16KB です。デデュPLICATIONブロックサイズは、4KB、8KB、16KB、32KB、64KB から選択できます。

必要となるメモリおよびストレージ容量については画面下の [要件プランニングのクイックリファレンス] にて推定することができますので参考にしてください

#### <参考情報>

##### [Arcserve UDP 7.0 サーバ構成とスเปック見積もり方法](#)

バックアップ対象データ量や運用要件に応じ、「コンソール」と「復旧ポイントサーバ」をインストールするサーバに必要なメモリ、ストレージ容量を計算します。



## (6) [ステップ 4/5: バックアップ スケジュールの設定]

バックアップスケジュールを確認し、[次へ] をクリックします。

デフォルトの設定では以下の設定が行われています。必要に応じてスケジュール変更してください。

- ・UDP エージェントのインストール：インストールした日の 21 時
- ・最初のバックアップ (フル バックアップ)：インストールした日の 22 時
- ・日次バックアップ(増分)：22 時

※バックアップ スケジュールの設定を変更する場合、環境設定ウィザードの完了後、[リソース] タブの左ペインの [プラン] から作成したプラン名を選択し、右クリックのメニューから [プランの変更] を選択して [スケジュール] の設定を変更してください。

## ※注意：

バックアップ対象ノードにコンポーネントがインストールされていない場合、[UDP エージェントのインストール] のスケジュールに従って自動でリモートインストールを行います。

リモートインストールの際、約 900MB のインストール モジュールが対象ノードに転送されます。リモートインストールの転送量を制限する場合、事前に手動にてインストールを実行してください。



## (7) [ステップ 5/5: 確認]

プランの詳細を確認し、[次へ] をクリックします。

Arcserve Unified Data Protection

arcserve® UNIFIED DATA PROTECTION

更新サーバを使用できません。 | メッセージ (1) | administrator

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定 | ハイ アベイラビリティ

### 環境設定ウィザード

#### ステップ 5 / 5: 確認

プランの詳細を確認します。プランを編集するか、必要に応じて別のプランを作成します。

プランの作成 削除

プラン名	保護対象ノード	デスティネーションの選択	バックアップ スケジュール
Windows物理サーバのバックアップ	1. エージェントベース	w2019-01 > DS01	最初のバックアップ: 22:00, 日次バックアップ: 22:00

ヘルプ 前に戻る **次へ** キャンセル

Copyright © 2014-2019, Arcserve (USA), LLC and its affiliates and subsidiaries. All rights reserved. UTC+09:00 (日本標準時)

環境設定ウィザードにて [完了] をクリックします。

Arcserve Unified Data Protection

arcserve® UNIFIED DATA PROTECTION

更新サーバを使用できません。 | メッセージ (1) | administrator

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定 | ハイ アベイラビリティ

### 環境設定ウィザード

#### 次の手順

プランの環境設定が完了し、Arcserve Unified Data Protection を使用する準備ができました。Arcserve Unified Data Protection では、次のことが実行できます。

- 保護するノードを追加します。
- 仮想スタンバイ、ファイル コピー、レプリケーション、その他多くの機能を使用してプランをカスタマイズします。
- 復旧ポイント サーバおよびデータストアを含めることより、デスティネーションを追加します。

ウィザードを終了するには、[完了] をクリックします。

ヘルプ 前に戻る **完了** キャンセル

Copyright © 2014-2019, Arcserve (USA), LLC and its affiliates and subsidiaries. All rights reserved. UTC+09:00 (日本標準時)

作成済みのプランの設定 (バックアップ対象、バックアップ先、スケジュールなど) を変更する場合、左ペインの [プラン] - [すべてのプラン] から対象のプランを選択し、右クリックのメニューから [プランの変更] をクリックして、変更することができます。



### 3. 運用開始のための設定

#### 3.1 インストールの種類

[高度なインストール] では、以下の 3 つのコンポーネントから選択してインストールができます。

- Arcserve UDP エージェント
- Arcserve UDP 復旧ポイント サーバ  
(復旧ポイントサーバを選択すると、自動的にエージェントも選択されインストールされます)
- Arcserve UDP コンソール

[インストールの種類]

インストールするコンポーネントを個別に指定する場合、[インストール タイプの選択] で [高度なインストール] を選択します。



[高度なインストール] では、以下の 3 つのコンポーネントから選択してインストールができます。

- Arcserve UDP エージェント
- Arcserve UDP 復旧ポイント サーバ  
(復旧ポイントサーバを選択すると、自動的にエージェントも選択されインストールされます)
- Arcserve UDP コンソール



■ コンソールのインストール

[Arcserve UDP コンソール] のみ選択します。



■ 復旧ポイント サーバのインストール

復旧ポイント サーバのみを構築する場合、[Arcserve UDP 復旧ポイント サーバ] を選択します。

復旧ポイント サーバ インストール時には自動的に [Arcserve UDP エージェント] もインストールします。



## 4. 製品情報と無償トレーニング情報

---

製品のカatalogや FAQ などの製品情報や、動作要件や注意事項などのサポート情報については、ウェブサイトより確認してください。

### 4.1 製品情報および FAQ はこちら

Arcserve シリーズ ポータルサイト

<https://www.arcserve.com/jp/>

- ・ Arcserve Unified Data Protection 7.0 動作要件:

<https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-7-0-Software-Compatibility-Matrix?language=ja>

- ・ Arcserve Unified Data Protection 7.0 製品ドキュメント:

<https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-7-0-Documentation?language=ja>

- ・ Arcserve UDP のサポート FAQ:

<https://support.arcserve.com/s/article/205002865?language=ja>

- ・ Arcserve Unified Data Protection 7.0 注意/制限事項:

<https://support.arcserve.com/s/article/2019042201?language=ja>

- ・ Arcserve Unified Data Protection 7.0 ダウンロード情報

<https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-7-0-Solutions-Patches?language=ja>

### 4.2 トレーニング情報

#### 無償トレーニング

半日で機能を速習する Arcserve シリーズの無償ハンズオン(実機)トレーニングを毎月実施しています。どなた様でもご参加いただけますので、この機会にご活用ください。

(注：競業他社の方はお断りしております。)

<https://www.arcserve.com/jp/jp-resources/seminar/>

